

飯豊町持続可能な観光計画〈令和7年度～令和11年度〉 概要版

持続可能な観光計画の目的と背景

観光は、宿泊業者や旅行者だけのものではありません。観光従事者と、観光には直接は関係ない町民をはじめ農業・林業従事者、商工従事者たちが、いかに連携していくかが、飯豊町外からたくさんの人を惹きつけるためには重要です。

観光をきっかけとした各主体の連携により、町の魅力が掘り起こされ、町外・県外・海外に情報発信されていくことで、町の経済や暮らしが活性化していく可能性を持っています。そのため飯豊町では、田園散居集落の景観や循環型農業、新しくは白川湖の水没林など、飯豊町の関係者が守り育ててきた資源を来訪者に楽しんでもらいながら、美しい飯豊町を未来につなぐための活動への参加を町内外に呼びかけていきます。

観光を入口として地域資源の保全・活用を図りながら来訪者と町民がともに考え、飯豊町を「まるごと」楽しめるような新しい取組・活動を生み出す「手づくりの観光」を目指していきます。そして、交流や協働を通じて町民も来訪者も元気になる、飯豊町の持続可能な成長を目指します。

計画の位置付け

本計画は、「第5次飯豊町総合計画」に則するとともに、「観光立国推進基本計画」や日本版「持続可能な観光ガイドライン」、「第3次おもてなし山形県観光計画」との整合性を図りながら、観光振興施策を示すものです。

国 観光立国推進基本計画

観光の質的向上を象徴する「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」の3つのキーワードに、持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大の3つの戦略に取組み、推進していくための計画。

国 持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)

持続可能な観光の推進に資するべく、各地方自治体やDMOが多面的な現状把握の結果に基づき、持続可能な観光地マネジメントを行うための観光指標。4つの分野、38の大項目で構成。

県 第3次おもてなし山形県観光計画

持続可能な観光地域の確立を目指し、3つの「施策の柱」を設定。①「本物の価値」の追求による稼ぐ力の向上、②「人材×DX」による観光産業の活性化、③地域一体となったすべての人にやさしい観光地づくりに基づいた施策を展開。

第5次飯豊町総合計画

飯豊町が目指す将来の町の姿を定め、それを実現するための指針や方策を示した町の最上位計画
基本理念「やっぱり、飯豊で幸せになる」
将来都市像「田園の息吹が暮らしを豊かにするまち」

関連計画

- ①第2期飯豊町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ②第3期SDGs未来都市計画
- ③飯豊町過疎地域持続的発展

飯豊町持続可能な観光計画 (令和7年度～令和11年度)

「第5次飯豊町総合計画」に則し、上位・関連計画との整合性を図りながら、観光振興施策を示すための計画。また、2020年に観光庁が策定をした国際基準に準拠した持続可能な観光指標「日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)」を導入し、各施策・事業をJSTS-Dの各指標に紐づけて展開。

計画の期間

本計画の実施期間は、令和7(2025)年度から令和11(2029)年度までの5年間とします。また、計画期間の中間年(令和9(2027)年度)と最終年において、施策事業の評価・検証を行い、観光客の動向などについては、単年度ごとに統計データを収集・分析し、その後の施策事業に反映させていきます。さらに、社会情勢や住民意識の変化など様々な状況を考慮して、必要に応じて、計画の見直しを行います。

令和6(2024)年度
計画策定

令和7(2025)年度～令和11(2029)年度(5ヵ年計画)
飯豊町持続可能な観光計画

観光における社会潮流

○**サステナブル・ツーリズム**：SDGsの普及や、インバウンドを中心とした観光客により住民生活が脅かされるオーパーツーリズムの発生にともない、観光分野においても地域の環境や社会文化に配慮しつつ、地域経済を活性化させる「持続可能な観光」が求められています。

○**体験型観光への転換**：「大人数」で行動して「見る・買う」から、「少人数・個人」で地域に滞在し、地域の自然を生かしたアドベンチャーツーリズムや伝統工芸の体験や販売と組み合わせた文化体験など、高付加価値な体験をする観光に転換しつつあります。

○**観光客の意識・スタイルの変化**：コロナ禍を経て「密」から「疎」による自然アクティビティの充実、「団体」から「個人」による受入体制の再整備、インバウンド復活にともなう戦略の検討が求められています。

○**デジタル活用の重要性の高まり**：SNSの活用による情報発信や観光DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進による利便性向上が必要です。

飯豊町における観光の課題

課題1

人口減少に対応し働き方の多様化など、人手不足への対応が急務

飯豊町の人口は、2024年末で6,203人となっており、2000年から毎年120人以上が減少しています。また、人口推計をみても減少トレンドは変わらず2060年には3,000人を割り2,745人となっています。一方で高齢化率は将来に渡って増加しており2020年の38.7%から2060年には48.5%となっています。観光産業をはじめ、農業や商工業など人口減少に対応するため、働き方の多様化や就労環境の改善など、人手不足への対応が求められます。

課題2

立ち寄り型観光から滞在型観光へのシフトが必要

飯豊町を訪れる観光客数はコロナ禍から順調に回復していますが、コロナ禍以前までは回復していません。また、来訪者アンケート(R6.10)では、約半数が滞在1時間以内の日帰り客となっており、持続可能な観光地をめざすためには、宿泊客・長期滞在客を増やしていく必要があります。

課題3

旅「前」「中」「後」を意識した、1人当たりの観光消費額の増加が必要

飯豊町では課題2の通り日帰り客が多く、また、立ち寄り先もめざまみの里観光物産館や白川荘など一部に限られているため、目的地となる魅力的な宿泊施設の整備に加え、付加価値を高めた特産品開発や体験型のコンテンツ造成など、町内周遊を促す仕組みづくりや旅行「前」・「中」・「後」を意識した観光消費額の増加に向けた取り組みが必要です。

課題4

年間を通じた高付加価値・高単価な体験コンテンツの造成など、観光需要の平準化が必要

飯豊町の観光は春の水没林や飯豊山登山のグリーンシーズン、秋の紅葉時、その中でも大型連休に集中しており、観光事業者や自然資源への負荷が大きくなっています。そのため、年間を通じ高付加価値・高単価な観光コンテンツの開発やインバウンド客による観光需要の平準化が求められています。

課題5

観光と農商工連携による観光まちづくりの推進が必要

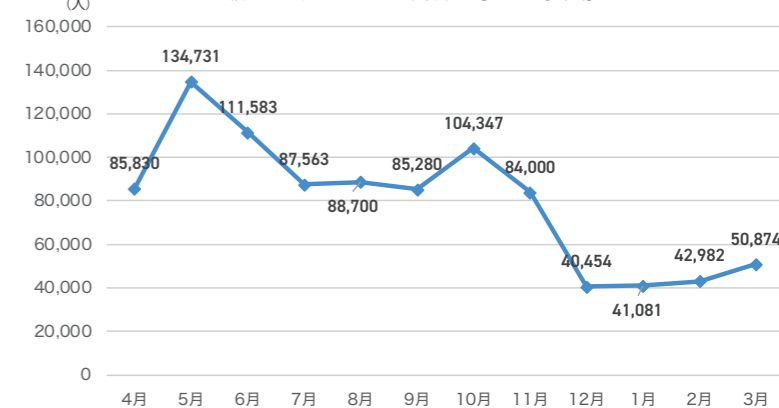
観光事業者へのヒアリング調査では、飯豊に既にあるものを活かした特産品の開発や既存品のブランド化・PR、ふるさと納税の強化など、農業・商工業と観光との連携について課題が多くあげられています。そのため、観光事業者だけではなく、農業・商工業等と連携し飯豊町をあげて観光施策を推進することが求められています。

課題6

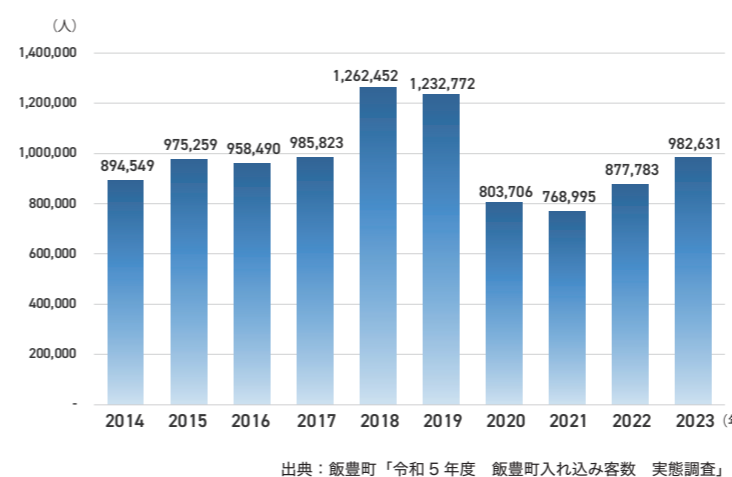
ユーザー目線による広域での観光コンテンツ造成、観光連携が必要

観光事業者へヒアリング調査では、農業、商工業での担い手(人材)の確保が大きな課題としてあげられています。そのため、観光と産業の連携による効率化やユーザー目線での市町村連携など広域での観光コンテンツの造成が必要です。

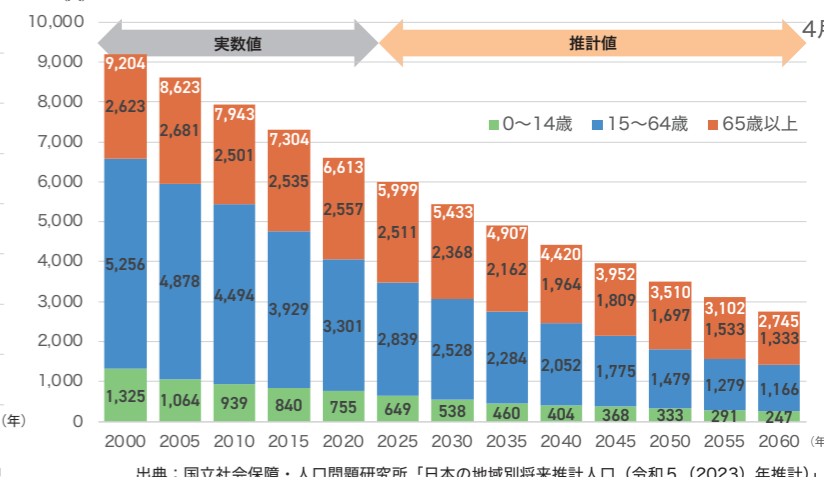
飯豊町月別入込客数 (R5年度)



飯豊町観光者数



飯豊町人口推移



いいでまると “えんむすび”

-3つの“えん（円・園・縁）”でむすぶ第2の家族へ-

円：お金（地域経済）、循環丸型（町と観光客と事業者の三方よし）
園：飯豊町の象徴である田園。見てよし体験してよし食してよし
縁：人と人との縁

現状 | 令和5年度 982,631人
目標 | 令和11年度 1,262,452人

現状 | 令和6年度 宿泊：9,767円/人回
日帰り：1,283円/人回
目標 | 令和11年度 宿泊：14,650円/人回
日帰り：1,925円/人回

現状 | 令和5年度 16,768人
目標 | 令和11年度 27,824人

現状 | 令和7年度（実施予定） - %
目標 | 令和11年度 +10%

将来ビジョンの考え方

- 「手づくりのまち」、「住民主体のまちづくり」を活かし参加と協働による持続可能な観光まちづくり(受皿づくり)へ
- 地域のストーリーがまるごと伝わる体験・価値の提供で、町外・県外・海外からの来訪者に選んでもらえる飯豊町に
- 日帰りや1度きりの来訪といった関係からリピーターやお互いの顔が見える関係に〈関係人口(第2の家族)の創出〉

重点プログラム

1 高付加価値型滞在観光への転換

- 1-1 白川湖水没林エリア全体の高付加価値エリアブランディングに向けた遊休施設の再生
- 1-2 地域振興公社の経営再建（白川荘、しらすぎ荘の魅力化）
- 1-3 農家民宿の推進（中津川地区）
田園散居を活かした民泊の検討（民泊 2.0）

2 オールシーズンでの観光コンテンツの開発

- 2-1 町の看板資源である水没林をフックとした観光消費の最大化と徹底した需要分散対策の両立
- 2-2 地域のストーリーを生かした高単価なコンテンツ開発
- 2-3 インバウンドの誘致促進（個人旅行化による単価向上）

3 観光と産業の一体的振興

- 3-1 地域商社の設立の検討（攻めの組織の組成）
- 3-2 付加価値ある特産品の開発とツーリズムの連携
- 3-3 グリーンツーリズムの促進
- 3-4 ふるさと納税の利用促進
- 3-5 アンテナショップ IIIDE の活用促進
- 3-6 トップセールスの実施（消費者・各連携組織への PR）

基本方針・基本施策

A 持続可能なマネジメント

飯豊町全体、置賜地域、新潟県～山形県広域で観光の効果の最大化を視野にいれ、各観光の担い手となる地域間・産業間など取組主体での連携強化を図ります。

- 基本施策 1 各種団体との連携の場づくり
- 基本施策 2 ふるさとを愛する心を育む教育の展開
- 基本施策 3 観光マネジメントの推進
- 基本施策 4 観光地マーケティングとプロモーションの推進
- 基本施策 5 災害や感染症対策に強い地域づくりの促進



B 社会経済の持続可能性

「グリーンシーズン×通過」型の観光から「オールシーズン×滞在」型への転換を図り、町内での観光消費額の拡大を目指します。

- 基本施策 1 高付加価値型滞在拠点の整備
- 基本施策 2 観光と産業の連携による魅力づくり
- 基本施策 3 観光人材の確保と多様な働き方の促進
- 基本施策 4 多様な受入環境整備



C 文化の持続可能性

飯豊連峰の恵みを背景にした、地域に根ざした自然・歴史・文化の多面的な活用と、それらを支える人材の育成・活用を進めます。

- 基本施策 1 田園景観の活用保全
- 基本施策 2 地域伝統文化の継承支援
- 基本施策 3 地域ストーリーの発掘・発信



D 環境の持続可能性

飯豊町の自然環境や暮らしをより持続可能に、より豊かにするために客観的な数値データによる現況の把握と成果の評価、検証に取り組みます。

- 基本施策 1 自然環境の保全と活用
- 基本施策 2 雪の多面的利用と親雪の促進
- 基本施策 3 再生可能エネルギー等による創エネの促進
- 基本施策 4 環境負荷の小さい交通の促進



アクションプラン

- AP1 観光事業者・地域関係者等が参画する場の設置
- AP2 郷土愛を育む次世代教育の推進
- AP3 地域商社の設立の検討
- AP4 地域振興公社の経営再建（白川荘、しらすぎ荘の魅力化）
- AP5 ベストツーリズムビレッジ（BTV）認定取得
- AP6 計画の進捗管理と継続的な検証
- AP7 地域防災計画の推進

- AP1 農家民宿の推進
- AP2 グリーンツーリズムの確立
- AP3 白川湖水没林エリア全体の高付加価値エリアブランディングに向けた遊休施設の再生
- AP4 アンテナショップ IIIDE を活用した PR
- AP5 ふるさと納税の利用促進
- AP6 付加価値ある特産品の開発とツーリズムの連携
- AP7 製品の販路開拓や流通網の整備
- AP8 (仮称) いいでの人事部の検討（地域の人事部）
- AP9 長期滞在を促す体験や受入体制の整備
- AP10 インバウンドの誘致促進（個人旅行化による単価向上）

- AP1 田園散居を活かした民泊の検討（民泊 2.0）
- AP2 子どもたちへの地域伝統行事の伝承支援
- AP3 地域のストーリーを生かした高単価なコンテンツ開発
- AP4 地域のストーリーを伝えるガイドの育成、発信

- AP1 町の看板資源である水没林について、環境保全を前提とした観光消費の最大化と徹底した需要分散対策の両立
- AP2 雪室施設の利活用や商品開発
- AP3 ゼロカーボンシティに向けた取組
- AP4 環境負荷が小さい二次交通の検討

推進体制

